

縄文  
ドキドキ

# すごいぞ！土器の世界

## 1万5千年前の大発明！

北東アジア最古の土器は、青森県大平山元遺跡から出土した 15,000 年前のもの。煮炊きの跡もついています。それまで人々は、木や動物の骨や角を削ったり割ったりしながら道具を作っていましたが、縄文人は初めて、何もないところから粘土をこね、熱で化学反応を起こさせて新しい道具を生み出しました。それが土器。このことにより食生活も暮らし方も大きく変化したのです。すごいぞ！！縄文土器。

### 土器と一緒に 定住生活へ

縄文人が採集・漁労・狩猟をしながらも定住生活を実現できたのは、自然と向き合い計画的に食べ物をとり、土器により貯蔵もできたから。縄文人は、「狩猟・採集＝移動」という世界の常識を覆したのです。



### 土器のカタチ

津軽海峡を挟んで北海道と北東北の土器の変遷はそっくり。同じ文化圏として交流したことが伺えます。一方、ゴージャスな「火焰土器」は、新潟県周辺でのみ出土している地域特有のもの。北海道や他の地域では見られません。

### 熱々の縄文鍋も？

土器を使って魚や肉をグツグツ煮込み、山菜や木の実のアクを抜き、サンショウやシソなどの調味料を加えて最高グルメ。また、木の実などを入れて貯蔵もできました。

### 形も用途も バラエティ豊かに

縄文後期・晩期になると、形も文様も複雑になり、マツリや儀式に使われたことも推測されます。埋葬に使った土器もあるようです。

### マンモスを食べていた人が突然ベジタリアンにはならない

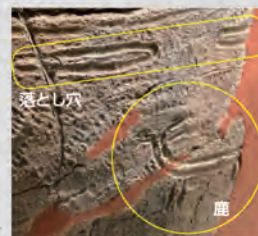
土器は、ドングリなどの堅い植物を煮て食べるために発明されたと言われているが、その定説が大正3遺跡出土の土器によって覆された。この土器は縄文草創期（約 1 万 4 千年前）のもので北海道最古に位置づけられている。その土器の内面にこびり付いた炭化物（おこげ）を帯広市教育委員会が採取し、窒素・炭素安定同位体の分析をしたところ、「海洋性魚類」を煮たことがわかった。食料がマンモスなどから海洋性の動物に変わったのだらう。

オモシロ  
すぎる！

# あんな土器・こんな土器

### シカ 絵画土器

シカの姿と落とし穴が描かれ当時の狩りの様子がわかる。



※縄文中期／函館市白尻B遺跡／函館市縄文文化交流センター

### トトロの土器

縁に4つの飾りは、耳、目、口、ひげのよう見え、まるで「トトロ」！



※縄文中期／函館市内浜町A遺跡／市立函館博物館

### フクロウの土器

縁にフクロウの顔



※縄文晩期／千歳市美々4遺跡／北海道埋蔵文化財センター

推定500匹の  
コクゾウムシが  
練り込まれた

### 土器？！

コクゾウムシは栗の木について北海道に運ばれ、土器の中で繁殖した？



※縄文後期／福島町館崎遺跡／北海道埋蔵文化財センター

### 人形装飾付異形注口土器



口縁部に2つ、中間部分に2つ合計4つの顔。うち2つには身体も描かれている。

※縄文後期／北斗市茂辺地遺跡／国立東京博物館所蔵  
新函館北斗駅や北海道博物館

### 男女の土器



2つの土器は、同じ遺跡から一緒に出土。左は男性を象徴した注口土器、右側は下部に穴があり女性を象徴している。命の誕生を大切にしている縄文人の思いが伝わる。

※縄文後期／函館市八木B遺跡／函館市縄文文化交流センター

### 赤彩注口土器

水銀朱の漆を塗った土器。愛称は「赤ブタちゃん」



※縄文後期／八雲町野田生1遺跡／八雲町郷土資料館所蔵、北海道埋蔵文化財センター

※【時代／発掘遺跡／所蔵・展示場所】